

## 第5章 観光文化スポーツ部

## [観光文化スポーツ部]

### 1. 観光・コンベンションの振興

- (1) 竿燈まつり振興事業 (予算額 23,176千円)  
秋田竿燈まつりの保存と振興により、交流人口の増加と地域の活性化を図るため、秋田竿燈まつりの開催に対して補助金を交付する。
- (2) インバウンド誘客促進事業 (予算額 6,247千円)  
インバウンド誘客を促進するため、県と連携して現地プロモーションやトップセールス等を行うほか、台湾台南市と観光、文化、スポーツなど様々な分野で交流することで相互の理解を深め、交流人口の拡大を図る。
- (3) 観光施設維持管理経費 (予算額 63,902千円)  
秋田市が所管する観光施設の維持管理・運営等を行う。  
ア 河辺ユフォーレ公園施設 河辺地域振興(株)が指定管理  
イ 雄和6施設 (株)雄和振興公社が指定管理  
ウ 雄和高尾山レクリエーション施設 市が直接管理
- (4) 観光施設整備等経費 (予算額 12,352千円)  
観光客等の安全で快適な利用に供するため、雄和観光交流館空調設備修繕のほか、老朽化等に伴う施設の改修・修繕を計画的に行う。
- (5) 観光プロモーション事業 (予算額 54,209千円)  
本市の認知度やイメージを高めるため、竿燈公演を核とした効果的な観光プロモーションを展開するほか、民間団体と連携した観光誘客活動を展開する。
- (6) 秋田市観光振興協働交付金 (予算額 107,110千円)  
本市観光振興の担い手である(公財)秋田観光コンベンション協会に対して交付金を交付し、同協会の機能強化を図るとともに各種観光振興事業を実施する。
- (7) オール秋田「食と芸能」大祭典開催経費 (予算額 20,500千円)  
県内の豊かな伝統芸能と食文化を集結したイベントを本市で開催し、県内外からの交流人口の拡大と県内周遊観光の拡充に取り組む。
- (8) 観光客等受入促進事業 (予算額 5,935千円)  
秋田市観光myタクシーを利用した観光客に対し、費用の一部を補助するほか、観光案内板の修繕を行う。
- (9) まちなか観光案内拠点整備事業 (予算額 3,826千円)  
「秋田市まちなか観光案内所」を国登録有形文化財として継続登録するための取組や施設周辺環境整備等を行う。
- (10) まちなか観光案内所運営経費 (予算額 10,334千円)  
「秋田市まちなか観光案内所」の管理運営を指定管理者に委託し、本市観光案内の拠点として案内所を運営する。

### 2. にぎわい創出

- (1) 中心市街地にぎわい創出事業 (予算額 15,287千円)  
中心市街地のにぎわいを継続するため、にぎわい広場でのイベント等様々な取組を支援するとともに、にぎわい交流館等の情報発信機能を充実させ、中心市街地の魅力アップと継続的なにぎわい創出を図る。
- (2) にぎわい交流館等施設管理費 (予算額 157,821千円)  
にぎわい交流館および中通一丁目自動車駐車場の維持管理・運営等を行う。  
にぎわい交流館および中通一丁目自動車駐車場 あきたまちづくり共同企業体が指定管理
- (3) 北前船日本遺産推進事業 (予算額 5,411千円)  
日本遺産に認定された自治体と連携し、北前船寄港地の情報発信等に取り組むとともに、全国の北前船寄

港地で開催されるフォーラムへの参加、酒田市との交流事業により地域の活性化、観光誘客を図る。

- (4) 北前船寄港地フォーラム開催経費 (予算額 11,494千円)  
 県と連携し、東北観光復興対策交付金を活用して「北前船寄港地フォーラムin秋田」を本市で開催することにより、秋田の有形無形の文化財や観光資源等の魅力を発信し、本市の観光振興の推進や交流人口の拡大を図る。
- (5) 秋田港大型クルーズ船誘致等事業 (予算額 60,142千円)  
 クルーズ船の誘致による本市への観光誘客を図るため、県や関係団体と連携し、クルーズ船社への訪問などのほか、秋田港に寄港するクルーズ船の歓迎セレモニーや安全管理業務等を実施する。
- (6) 秋田市ポートタワー・秋田港振興センター管理運営経費 (予算額 83,557千円)  
 秋田港のシンボル施設である秋田市ポートタワーと秋田港振興センターを適切に管理運営することにより、多くの人が集い、憩い、周辺一帯ににぎわいをもたらす場とし、秋田港本港地区の活性化および秋田港の振興を図る。  
 ア 秋田市ポートタワー「セリオン」 (株)秋田スパ・アンド・ドライブイン・サービスが指定管理  
 イ 秋田港振興センター「セリオンプラザ」 (株)秋田スパ・アンド・ドライブイン・サービスが指定管理
- (7) 秋田市ポートタワー・秋田港振興センター修繕経費 (予算額 97,650千円)  
 秋田市ポートタワーと秋田港振興センターについて、施設等の劣化や機能低下に対して、適切に修繕・更新することにより、長期間にわたり有効活用を図る。

### 3. 文化振興

- (1) 文化の振興  
 秋田市文化振興条例（昭和58年3月）の制定とともに、文化振興基金270,000千円を設置（令和2年度末230,183千円）し、その運用益等を芸術、学術等で広く市民文化の振興に貢献した個人、団体の諸活動に対する顕彰等に充てる。  
 また、市民の自主的な文化活動や中学校、高等学校等の文化部活動、特別支援学校における文化活動を支援するとともに、活動の場、鑑賞の機会、情報の提供に努める。
- (2) ふるさと文化創造発信事業 (予算額 10,591千円)  
 秋田ならではの文化芸術事業を支援することにより、文化芸術による国内外への情報発信や交流人口の拡大に加え、にぎわいの創出を図る。また、市役所1階市民の座でミニコンサートを開催する。
- (3) 文化創造館管理運営経費 (予算額 121,261千円)  
 秋田市文化創造館を指定管理者制度により管理運営を行い、施設の貸出および事業の企画・運営を行う。
- (4) 文化財の保護および活用  
 文化財愛護思想の普及を図るとともに、文化財の指定や保存を推進するなど、文化財の保護および活用に努める。

秋田市内の指定文化財一覧 (令和3年4月1日現在)

種別 指定区分	有形文化財								無形文化財	民俗文化財		記念物			計
	建造物	絵画	彫刻	工芸	書跡古文書	考古資料	歴史資料	有形民俗		無形民俗	史跡	名勝	天然記念物		
国	8	—	1	—	1	2	1	—	2	3	3	1	1	23	
県	3	13	10	27	19	20	10	—	4	2	5	—	1	114	
市	8	16	19	21	23	13	19	2	7	11	8	2	11	160	
計	19	29	30	48	43	35	30	2	13	16	16	3	13	297	

- (5) 文化財保存事業補助金 (予算額 643千円)  
 文化財の保護と活用を図るために、重要文化財嵯峨家住宅・天徳寺・三浦家住宅の管理費の一部と、市指

定無形民俗文化財山谷番楽の伝承のための経費を補助する。

- (6) カモシカ食害対策事業 (予算額 3,000千円)  
特別天然記念物カモシカの保護と農作物への食害を防止するため、農業被害に対して防護網や忌避臭袋を支給する。
- (7) 遺跡事前発掘調査事業 (予算額 92,732千円)  
宅地造成などの開発行為から埋蔵文化財を保護するために、発掘調査を行う。
- (8) 地蔵田遺跡公開活用事業 (予算額 1,000千円)  
弥生時代前期の集落跡である国指定史跡地蔵田遺跡(平成8年11月6日指定)を、郷土学習の生きた教材として有効活用するとともに、史跡の周知を促進するために情報発信を行う。
- (9) 重要文化財天徳寺保存修理事業補助金 (予算額 34,200千円)  
重要文化財天徳寺(本堂・書院・開山堂)の保存修理にかかる事業費の一部を補助する。
- (10) 旧松倉家住宅修復整備事業 (予算額 98,094千円)  
県指定有形文化財旧松倉家住宅(平成29年3月24日指定)を将来にわたって継承し、一般公開などの有効活用を図るため整備を行う(令和元年度～4年度の継続費)。
- (11) 羽州街道歴史観光推進事業 (予算額 15,528千円)  
魅力ある文化財が点在する旧羽州街道について、ウォーキングガイドや映像ソフトを活用した情報発信、歴史まつり、ミュージカル等のイベントを通じて観光資源としての認知度を高め、歴史を活かした都市の魅力向上を図る。
- (12) 文化財保存活用地域計画策定等経費 (予算額 1,471千円)  
平成31年4月の文化財保護法改正により、市町村における文化財保護活用の総合的な計画として位置づけられた文化財保存活用地域計画を策定する(令和2年度～5年度)。
- (13) 秋田城跡歴史資料館 (予算額 407,706千円)  
平成28年4月に、国指定史跡秋田城跡(昭和14年9月7日指定)の調査研究成果の公開と活用の総合拠点として開館した。  
史跡秋田城跡の発掘調査、環境整備および土地の公有化を長期計画に基づいて継続的に実施するほか、出土遺物の科学保存処理を行う。
- ア 令和2年度入館者数 4,887人
- イ 利用案内
- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
  - ・開館時間 午前9時00分～午後4時30分
  - ・観覧料 一般(大学生を含む) 210円(160円)  
( )は団体20人以上の料金
- 年間観覧券 310円  
高校生以下 無料
- ぐるりん周遊バス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円
- (14) 千秋美術館 (予算額 250,708千円)  
昭和33年、秋田市美術館として設立。平成元年に市制100周年を記念してアトリオン内に移転、開館した。市の中心部に位置し、市民が気軽に立ち寄り優れた美術品に親しむことができる都市型美術館である。  
秋田蘭画をはじめ、寺崎廣業など郷土ゆかりの作家・作品のほか、洋画家・岡田謙三、写真家・木村伊兵衛などの作品を収蔵する。館蔵品による常設展示、国内外の優れた作品による企画展を開催している。
- ア 令和2年度入館者数 19,717人
- イ 利用案内
- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、アトリオン全館点検日(9月・2月)
  - ・開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
  - ・観覧料 常設展 一般 310円(250円)  
大学生 210円(160円)

( )は団体20人以上および県立美術館との相互割引の料金

高校生以下 無料

企画展は企画毎に異なるが、常設展も観覧できる。

年間観覧券 一般 2,500円

大学生 1,000円

くるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円 (企画展観覧は別途料金が必要)

(15) 赤れんが郷土館 (予算額 43,727千円)

昭和60年、郷土の歴史のおよび文化的所産の保存と活用を通じ、市民の教育と文化の向上に資するための施設として開館した。建物は明治45年に建築された旧秋田銀行本店本館で、昭和56年に市制施行90周年記念として銀行から市に寄贈されたものであり、平成6年には国の重要文化財(建造物)に指定されている。

郷土の歴史・文化に関わる企画展を開催しているほか、版画家・勝平得之と鍛金家・関谷四郎の作品、本市の伝統工芸品を常設展示している。

また、各種学習講座・講演会や文化財を利活用した赤れんが館コンサート等を開催している。

ア 令和2年度入館者数 8,500人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間
- ・開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・観覧料 一般(大学生を含む) 210円(160円)  
〃 年間観覧券 520円  
〃 民俗芸能伝承館との共通観覧券 260円(210円)

( )は団体20人以上の料金

高校生以下 無料

くるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(16) 民俗芸能伝承館「愛称：ねぶり流し館」 (予算額 37,269千円)

平成4年、竿燈・土崎神明社祭の曳山行事・梵天など郷土の民俗行事や秋田万歳・黒川番楽・山谷番楽・羽川剣ばやしなどの民俗芸能の展示と伝承のための施設として開館した。

来館者が気軽に竿燈にチャレンジできる施設として活用されているほか、後継者育成のための練習や発表の場として練習室等の貸出しも行っている。

ア 令和2年度観覧者数 13,741人

イ 令和2年度施設使用者数 3,079人

ウ 利用案内 (民俗芸能伝承館・旧金子家住宅)

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ・開館時間 民俗芸能伝承館 午前9時～午後9時(練習室等を利用した場合)  
旧金子家住宅 午前9時～午後4時30分(土蔵等を利用した場合)
- ・観覧時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・観覧料 一般(大学生を含む) 100円(80円)  
〃 赤れんが郷土館との共通観覧券 260円(210円)

( )は団体20人以上の料金

高校生以下 無料

くるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(17) 旧金子家住宅

江戸時代後期の建築様式を継承した町屋の特徴を残した建物として、平成9年に市の有形文化財に指定され、平成16年度までに主屋と土蔵の復元整備を終えた。平成17年度から商家の店先を再現展示するとともに、土蔵と和室を展示会等の多目的利用が可能なスペースとして貸出しを行っている。

ア 令和2年度観覧者数 13,741人

イ 令和2年度施設使用者数 305人

(18) 佐竹史料館

(予算額 55,549千円)

平成2年、秋田藩主佐竹氏関連の歴史資料の収集と展示を目的に開館した。復元した久保田城御隅櫓や、御物頭御番所などの施設と連携して秋田の藩政時代を紹介している。

ア 令和2年度入館者数 6,721人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間
- ・開館時間 午前9時～午後4時30分
- ・料金 一般 100円(80円)  
( )は団体20人以上の料金  
高校生以下 無料  
年間観覧券 210円

ぐるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(19) 久保田城御隅櫓(くぼたじょうおすみやぐら)

久保田城本丸北西の隅に位置していた櫓を、市制100周年を記念して展望室を加えて復元した。久保田城や佐竹氏の歴史をパネル展示などにより紹介している。

ア 令和2年度入館者数 11,601人

イ 利用案内

- ・休館日 12月1日～3月31日
- ・開館時間 午前9時～午後4時30分(市立小・中学校の夏季休業期間は、午前9時～午後7時)
- ・料金 一般 100円(80円)  
( )は団体20人以上の料金  
佐竹史料館の年間観覧券持参者および高校生以下 無料

ぐるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(20) 御物頭御番所(おものがしらごばんしょ)

久保田城内の二ノ門(長坂門)の開閉および管理と城下の警備、火災の消火などを担当していた物頭(足軽の組頭)の詰所であり、城内に唯一残っている藩政時代(18世紀中頃)の建物として、平成2年に市の有形文化財(建造物)に指定されている。

(21) 旧黒澤家住宅

藩政期に建てられた上級武家住宅。主屋をはじめ表門、米蔵、土蔵、木小屋、氏神堂などが当時のまま残っているのは全国でも例がなく、平成元年に国の重要文化財に指定されている。昭和63年に市内中通から一つ森公園内に移築している。

ア 令和2年度入館者数 716人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ・開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・料金 一般 100円(80円)  
( )は団体20人以上の料金  
高校生以下 無料

ぐるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(22) 旧秋田藩主佐竹氏別邸(如斯亭)庭園

江戸時代に整備された旧藩主佐竹氏の御休所で、東北地方の大名庭園や庭園文化を知る上で重要である。平成19年に国の名勝に指定された。平成26年から修復整備を行い、平成29年10月から一般公開を行っている。

ア 令和2年度入園者数 2,568人

イ 利用案内

- ・休園日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ・開園時間 午前9時～午後4時30分(4月～11月)

午前9時30分～午後4時（12月～3月）

- ・入園料 一般 210円（160円）  
 （ ）は団体20人以上の料金  
 高校生以下 無料  
 年間入園券 520円

くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券） 500円

(23) 文化会館 (予算額 228,256千円)

昭和55年、市民の芸術文化活動の拠点として開館した。大・小ホールのほか、会議室、練習室、展示ホール等を備え、公演・発表および会議の場として活用されている。

また、優れた芸術の鑑賞機会の提供や、市民参加型の事業を実施し、芸術文化の啓蒙を図っている。

ア 令和2年度利用者数 280,412人

イ 主な施設

- ・大ホール 収容定員 1,188人（うち車いす用スペース3、補助席9）
- ・小ホール 収容定員 400人（うち車いす用スペース3、母子席6、補助席3）
- ・会議室 大会議室、第1会議室～第7会議室、和室会議室
- ・練習室 第1練習室、第2練習室、リハーサル室、和室練習室
- ・展示ホール 第1展示ホール、第2展示ホール

ウ その他の施設

- ・茶室
- ・託児室
- ・喫茶

◎文化施設

施設名	開設年	構造	面積 (㎡)	備考
秋田城跡歴史資料館	平28	鉄筋コンクリート平屋建	947.00	平28.4開館 展示施設 324.0㎡ 管理運営施設 623.0㎡
野外音楽堂	昭46	鉄筋コンクリート	69.00	野外ステージ
千秋美術館	昭33	鉄骨鉄筋コンクリート	2,933.63	平元.11アトリオン内に移転
赤れんが郷土館	昭60	煉瓦造一部RC3階建	1,899.99	国指定重要文化財（建造物）
民俗芸能伝承館	平4	鉄骨造5階建	1,340.02	展示室、練習室、会議室
旧金子家住宅	平17	木造2階建	607.92	市指定有形文化財（建造物）
佐竹史料館	平2	鉄筋コンクリート高床式平屋建	518.86	
旧黒澤家住宅	平元	木造平屋建	343.39	国指定重要文化財（建造物）
御物頭御番所	昭63	木造中2階建	125.70	市指定有形文化財（建造物）
久保田城御隅櫓	平元	鉄筋コンクリート三層4階建	430.36	
文化会館	昭55	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造5階建	14,284.10	
地藏田遺跡出土品展示施設	平25	御所野総合公園管理事務所内	139.27	
如斯亭庭園	平29	庭園	4,054.99	国指定名勝

#### 4. スポーツの振興

- (1) スポーツ大会出場激励金 (予算額 3,838千円)  
トップアスリートの競技力向上と競技スポーツの普及振興を目的に、「国際大会に出場する選手」および「全国・東北大会に出場する小中学生」に対し激励金を支給する。
- (2) ジュニアアスリート支援事業 (予算額 1,406千円)  
次代を担うジュニアアスリートの競技活動を支援するため、スポーツ栄養学やメンタルトレーニングなどのセミナーを開催し、競技力向上に努めるほか、トップアスリートになるための心構えや意識付けを明確にするため、オリンピックを招聘した「トップアスリート講演会」の開催や実技指導を実施する。
- (3) 市民スポーツ活動振興事業 (予算額 18,581千円)  
全市一斉スポーツレクリエーション大会・ラジオ体操のつどいなどの開催や地区スポーツ大会・教室への助成事業および競技団体やスポーツ少年団の育成事業を（一財）秋田市体育協会に委託する。
- (4) はずむスポーツ都市推進事業 (予算額 8,540千円)  
はずむスポーツ都市のPRに努めるとともに、幅広い世代が健康づくりに取り組めるイベントや各種スポーツ教室等を実施する。  
ア 健康のつどい  
イ はずむ！スポーツ教室  
ウ 「はずむスポーツ都市」第9回フロアカーリング交流大会
- (5) チャレンジデー開催経費 (予算額 2,050千円)  
市民総参加型イベント「チャレンジデー」への参加を通じて、市民のスポーツに対する関心と習慣化を喚起するとともに、誰もが気軽に健康づくりに取り組み、地域の活性化や絆づくりにつながる豊かなスポーツライフの実現を目指す。
- (6) 生涯スポーツの振興 (予算額 6,498千円)  
ア 学校体育施設開放事業  
地域の身近なスポーツ施設である学校体育施設を開放し、気軽にスポーツに親しむことができる環境を提供する。  
イ 指定開放日 4月から11月までの毎週水曜日に、個人および10人未満のグループを対象に、施設を開放。開放時間は、グラウンドが午前6時から午前7時30分、体育館が午後7時から午後9時まで。  
ウ 団体使用 学校区内の住民10人以上で構成された団体は、「学校体育施設使用団体」として各学校単位で登録し、学校教育に支障のない範囲で施設を使用。  
イ スポーツ推進委員の育成  
ウ 学校開放スポーツ教室の開催  
エ ニュースポーツの普及・貸出用具の整備
- (7) スポーツホームタウン推進事業 (予算額 49,151千円)  
トップスポーツクラブの活動支援、バナーやのぼり等の掲出によるホームゲームのPRなどを行い、チームの経営・活動基盤を強化するとともに、市民が地元クラブを応援する気運を高めるほか、日本のトップレベルの選手が集う本市開催の世界大会等に支援し、交流人口の拡大を図る。
- (8) 体育施設整備補修等経費 (予算額 129,262千円)  
・秋田市立体育館ブラインド更新工事  
・雄和B&G海洋センタープール解体整地工事  
・雄和体育館アリーナ床改修工事  
・雄和南体育館外壁等改修工事  
・河辺体育館受変電設備更新等工事  
・八橋硬式野球場ファウルポール改修工事  
・河辺体育館屋外階段改修工事



- ・秋田市立体育館舞台機構吊物操作盤修繕
- ・八橋硬式野球場スコアボード設備表示パネル通信ケーブル等修繕

(9) ホストタウン交流事業 (予算額 4,487千円)

平成28年12月9日に登録された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン交流計画に基づき、フィジー共和国とのスポーツおよび文化交流等を継続し、地域経済の活性化と交流人口の拡大を図る。

(10) 障がい児者スポーツ活動応援事業 (予算額 1,075千円)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に市民のスポーツに対する関心が高まる中、障がい者がよりスポーツに親しむことができる支援体制や環境を整備する。

ア 障がい者スポーツ指導員の養成

- ・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会参加者への受講料助成

イ 障がい児者スポーツセミナー（パラスポーツフェスタ）の開催

- ・障がい児者スポーツに関するイベントを開催

ウ パラリンピック出場チーム事前合宿交流会の開催

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に出場するオランダパラリンピック水泳チームと地元障がい児者アスリート等との交流会を開催する。

(11) 東京2020オリンピック聖火リレー開催関連経費 (予算額 8,599千円)

6月8日に本市で開催されるオリンピック聖火リレーおよびミニセレブレーション（聖火点火式）を東京2020大会組織委員会および東京2020大会聖火リレー秋田県実行委員会と共に開催する。

(12) スポーツ振興マスタープラン策定等経費 (予算額 806千円)

多様化する市民ニーズやスポーツを取り巻く様々な環境変化に的確に対応するため、令和2年度に実施した「スポーツに関するアンケート調査」の結果を基に、現状や課題を分析し、令和4年度を初年度とする「第4次秋田市スポーツ振興マスタープラン」を策定する。

◎市体育施設の概要

施設名	所在地	収容人員 (人)	電話	規模 (㎡)	施設の内容
陸上競技場 (ソユースタジアム)	八橋運動公園 1-10	19,845	823-1472	29,458	第2種公認競技場 1周400m (8コース) 全天候型 LED投光器 (45灯×4基) 大型映像装置
硬式野球場 (さきがけ八橋球場)	八橋運動公園 1-7	16,421	867-1000	17,631	両翼100m、中堅122m マットフェンス張 LED付磁気反転表示スコアボード (H18.2)
球技場 (あきぎんスタジアム)	八橋運動公園 1-1	4,992	883-1870	16,268	メインスタンド 鉄筋コンクリート造P C造 一部鉄骨造3階建 延床面積 1,493.73㎡ 電光得点盤 夜間照明柱8基、 メタルハライド灯 1.0KW 128個 天然芝 (寒冷型西洋芝)
第2球技場 (スペースプロジェクト・ ドリームフィールド)	八橋運動公園内	730		10,900	観覧席 倉庫、夜間照明設備 メタルハライド灯 1.5KW 60個 人工芝
健康広場				11,100	倉庫、夜間照明設備 メタルハライド灯 1.5KW 60個
相撲場		2,000		3,362	改良野芝ひめの 盛土芝張、土俵上屋付 (4本柱)
テニスコート		2,000		7,644	砂入人工芝コート6面 本部席、夜間照明柱6基 メタルハライド灯 1.0KW 16個
〃				3,854	グリーンサンドコート4面、 用具庫
多目的グラウンド				13,250	管理倉庫、ダッグアウト 四阿、夜間照明設備 コンクリート柱6基、 メタルハライド灯 1.5KW 90個
市立体育館 (CNAアリーナ★あきた)	八橋本町六丁目 12-20	6,100	866-2600	11,433	鉄筋コンクリート2階建 競技場面積 メインアリーナ 2,540㎡ サブアリーナ 836㎡ 卓球室 324㎡ ジョギングコース 250m 固定観覧席 メインアリーナ 2,468人 ロールバックスタンド 900人 サブアリーナ 300人 計 3,668人 更衣室、シャワー室、会議室、 多目的ホール

施設名	所在地	収容人員 (人)	電話	規模 (㎡)	施設の内容
茨島体育館	茨島一丁目4-71		865-1417	2,323	鉄骨・鉄筋コンクリート造 3階建 体育館 923.40㎡ 武道場 399.33㎡ トレーニング室 145.35㎡ ミーティングルーム、更衣室、 シャワー室
河辺体育館	河辺和田字上中野 186	240	882-3654	2,205	鉄骨一部鉄筋コンクリート造 2階建 事務室、ホール、更衣室、器具 室、放送室、電気室
雄和体育館	雄和妙法字上大部 95-1	384	886-2844	2,571	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 2階建 事務室、ホール、小ホール 更衣室、ミーティングルーム
雄和南体育館	雄和神ヶ村字陳笠 259		887-2318	1,121	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 2階建 事務室、更衣室、 ミーティングルーム
河辺岩見三内野球場	河辺三内字上野 58-2		882-3654 (河辺体育館)	26,873	両翼91m、中堅120m、 用具室、器具室、屋外便所
河辺和田野球場	河辺和田字和田224		882-3654 (河辺体育館)	14,733	両翼91m、中堅120m、 審判控室、用具室、 カウント表示盤
河辺戸島野球場	河辺戸島字上野 50-1		882-3654 (河辺体育館)	12,000	両翼91m、中堅110m、 審判室、用具室、屋外便所
スポパークかわべ	河辺岩見字萱森 上野17-2		881-2411	65,171	管理棟 168.37㎡ 木造平屋建 サッカー場 9,750㎡ 多目的広場 11,952㎡ グラウンド・ゴルフ場 20,999㎡
北野田公園 アリーナ・テニスコート	河辺北野田高屋 字小高37-1	400	881-1950	56,000	アリーナ 砂入人工芝 (テニスコート2面分) 事務室、会議室、ロッカー・ シャワー室 テニスコート 砂入人工芝コート(8面) 夜間照明(4灯×8塔)
雄和新波野球場	雄和新波字寺沢 31-1		887-2318 (雄和南 体育館)	11,521	両翼90m、中堅110m、 事務室、更衣室、審判員室、放 送室、便所、バックネット
雄和花の森野球場	雄和石田字蟹沢39	1,300	886-2844 (雄和体育館)	96,182	メインスタンド 鉄筋コンクリート2階建 348.84㎡ 両翼100m、中堅122m、 事務室、更衣室、審判員室、放 送室、便所、バックネット バックスクリーン、 スコアボード、屋外トイレ
雄和花の森 テニスコート	雄和石田字蟹沢41		886-2844 (雄和体育館)	1,814	砂入人工芝コート(2面) 夜間照明(4灯×4基)

施設名	所在地	収容人員 (人)	連絡先	電話	規模 (㎡)	施設の内容
土崎市民グラウンド	土崎港西四丁目 3-1		北部市民サービスセンター	846-1133	9,400	夜間照明設備 鉄筋コンクリート柱 高さ20m 6基 メタルハライド灯 1.5KW 60個
勝平市民グラウンド	新屋豊町153-1		勝平屋内 ゲートボール場	866-1055	23,547	野球場1面、多目的広場 1面 夜間照明設備 コンクリート柱高さ21m 7基・20m 4基 メタルハライド灯 1.0KW 76個
勝平屋内 ゲートボール場	新屋豊町1-31			866-1055	996	ゲートボールコート2面 休憩室
光沼近隣公園 テニスコート	土崎港相染町字 沼端77			847-4602	1,490	砂入り人工芝コート2面
屋内多目的運動場 (光沼アリーナ) 一つ森公園 弓道場	下北手桜字蛭沢 62-1		一つ森公園 コミュニティ 体育館	831-8300	1,151 射場 158 的場 36	砂入人工芝コート ゲートボール場2面 6人立ち
茨島地域運動広場	茨島一丁目 12-12		茨島体育館	865-1417	4,045	多目的広場
横森地域運動広場	横森三丁目 3-1				8,342	野球場1面
西部地域運動広場	新屋大川町 20-5		西部市民サービス センター	828-4217	9,148	野球場1面
北部地域運動広場	下新城笠岡字 笠岡47		下新城地区コミュニティ センター	873-2112	8,755	野球場1面
手形中台地域 運動広場	手形字中台 59-2				7,102	多目的広場
飯島地域運動広場	飯島字古道92		飯島地区コミュニティ センター	845-1731	12,911	野球場1面
外旭川地域 運動広場	外旭川八幡田 一丁目18		外旭川地区コミュニティ センター	868-5075	10,170	野球場1面
湯野目地域運動広場	雄和下黒瀬字 湯野目39				1,758	多目的広場
下浜八田地域 運動広場	下浜八田字餅田 42-2				4,097	多目的広場

## 5. 秋田拠点センターアルヴェ・秋田市民交流プラザ管理室

秋田拠点センターアルヴェは、秋田駅東西の一体的なまちづくりを実現するため、秋田市と民間事業者とが連携して、平成16年7月にオープンした官民複合施設である。

### (1) 秋田市民交流プラザ管理室 (予算額 324,721千円)

アルヴェ公共棟である秋田市民交流プラザは、市民交流の場の創出、市民生活の向上、地域の活性化などを目的として、駅東サービスセンター、子ども未来センター、自然科学学習館、市民交流サロンにおいて各種行政サービスが行われているほか、きらめき広場や多目的ホール、音楽交流室や洋室などの有料貸出施設も有しており、さまざまなイベントや各種会合に利用されている。

また、秋田駅東西連絡自由通路（ぼぼろード）および秋田駅東口駅前広場の維持管理業務も行っている。  
有料貸出施設

- ・きらめき広場(600㎡) ・多目的ホール(410㎡)
- ・洋室A(35㎡)、洋室B(55㎡)、洋室C(120㎡)、和室(44畳)、調理室(50㎡)
- ・音楽交流室A(35㎡)、音楽交流室B(25㎡)、音楽交流室C(25㎡)、音楽交流室D(105㎡)

### (2) 官民連携秋田駅周辺活性化事業 (予算額 5,339千円)

秋田駅周辺の活性化を図るため、アルヴェ管理組合や民間事業者と連携し、にぎわい創出を目的とした各種集客イベントを開催している。

## 6. 大森山動物園

昭和48年9月に秋田市中心部の千秋公園内にあった「秋田市児童動物園」を秋田市西部の丘陵地に位置する大森山公園内に移転し、開園した。

開園後も、ゾウ、キリンなどの導入および施設整備を進めるとともに、各種行事の開催を行うほか、近年はふれあい教室や体験学習などの教育普及活動も実施している。

[沿革]

昭和25年8月1日	千秋公園内に「秋田県児童会館付属動物園」を開設
昭和28年4月1日	秋田市に移管され、「秋田市児童動物園」と改称
昭和48年9月1日	大森山公園内に移転し、「秋田市大森山動物園」と改称
昭和56年4月1日	「サル山」オープン
平成3年4月1日	「大型動物舎」完成（市制100周年事業）、ゾウ・キリン展示開始
平成9年4月26日	「ふれあいランド」オープン
平成14年3月21日	「チンパンジーの森」オープン
平成15年10月4日	「王者の森」オープン
平成18年1月1日	「秋田市大森山動物園条例」施行
平成19年3月31日	研修ホール・管理棟「ミルヴェ館」オープン
平成20年3月26日	動物健康管理センター「森のびょういん」オープン
平成21年3月31日	大型遊具「アソヴェの森」オープン（日本宝くじ協会の事業を活用）
平成22年3月31日	動物園再整備基本構想策定
平成23年3月19日	「さるっこの森」オープン
平成26年7月24日	「ビジターセンター」および「ウエルカム動物舎」オープン
平成28年3月19日	ネーミングライツ導入
平成28年8月1日	園内に無料の公衆無線LANを整備
平成29年10月18日	高病原性鳥インフルエンザ対策隔離飼養施設およびイヌワシ繁殖保全棟を整備
令和3年3月20日	サル舎「天空の楽猿（らくえん）」オープン

### (1) 入園者数 226,156人（令和2年度）

開園期間：4月1日～11月30日・1月9日～2月28日までの土日、祝祭日・3月20日～31日  
※臨時休園4月18日～5月10日・1月9日～11日

### (2) 面積

ア 総 面 積 150,070m<sup>2</sup>（うち水面面積 20,100m<sup>2</sup>）

イ 管理施設面積 建物 6,753.81m<sup>2</sup> 展示場 11,315.64m<sup>2</sup>

(3) 飼育展示動物数 合計92種545点 (令和3年3月31日現在)

内訳 : 哺乳類 50種335点 鳥類 26種143点 は虫類 10種 21点  
両生類 2種 4点 魚類 3種 19点 無脊椎動物 1種 23点

(4) 入園料 大人 730円  
団体 530円  
高校生以下無料

年間利用券(動物園パスポート) 1,250円

(5) 公園施設 開設面積69.31ha(動物園15ha含む)

ア 主な施設 グリーン広場 : 面積14,000m<sup>2</sup>、かまど、水洗トイレ、四阿  
展望台 : 標高123m  
キャンプ場 : 面積3,000m<sup>2</sup>、炊事場、テントサイト、トイレ  
駐車場 : 10か所、739台  
その他 : 彫刻の森、散策路

(6) 主な行事

月	名 称	内 容 等	令和2年度
5~11	3園館連携スタンプラリー	加茂水族館、GAOと共催	376組参加
4~11	くまぐま園連携プレゼントキャンペーン		90人参加
6	春の動物ふれあいフェスティバル	ウオーククイズなど	3,663人入園
7~3	大森山アートプロジェクト	作品展示、ワークショップなど	3作品4イベント
8	写生大会	親子で楽しむ写生大会	424点出品
〃	サマースクール	飼育体験など(3日間)	30人参加
〃	夜の動物園		15,385人入園
10	秋の動物ふれあいフェスティバル	展示場見学など	442人入園
〃	どうぶつサイエンス	来年の干支シリーズウシの仲間編	15人参加
11	いい夫婦の日イベント	夫婦・カップル限定イベント	6組15人参加
〃	さよなら感謝祭	セレモニーほか	1,470人入園
1~2	雪の動物園	干支展など(16日間)	19,873人入園
3	通常開園	初日(3月20日)	3,694人入園

(7) 教育普及活動実施状況

項 目	年 度		令和2年度	
	一	般	回	人
なかよしタイム	一	般	66回	1,928人参加
ふれあい教室	団	体	60回	1,528人参加
体 験 学 習			22回	606人参加
職 場 訪 問 ・ 講 話			10回	619人参加
そ の 他			13回	1,689人参加

※上記は全て延べ数